

にいがた
勤務医ニュース

発行所
新潟県医師会
新潟市中央区医学町通2-13
TEL 025(223)6381

この春卒業する皆さんへ

新潟県医師会 理事 佐藤 信昭



6年間、勉強に励み、無事に卒業を迎えられたこと、心よりお祝い申し上げます。この3つによりチーム力を引き上げました。

昨年ラグビーワールドカップ2019が開催されました。日本チームのテーマは『One Team』でした。様々なバックグラウンドを持つ選手たちが強く結束すること、はじめてのベスト8進出を果たし、さらなる躍進の可能性を示しました。ジョセフヘッドコーチは『One Team』とし

卒業おめでとう

この卒業おめでとうも大切です。今の気持ちをいつまでも大切に。



厚生連柏崎総合医療センター 院長 相田 浩

ご卒業おめでとうございます。皆さんは令和最初の卒業生です。国家試験も終えられたのも束の間、実際に臨床に出るにつれて不安や緊張がいつぱいではないかと思えます。私は平成2年に医学部を卒業しており、医師としてのキャリアがそのまます。あつという間の30年でした。先輩医師として多少の参考

に、患者さんは「血管が細くてくめんね」と、我々研修医を気遣ってくれました。技量が無かった代わり、患者さんの具合をしっかりと診ようと、できる限り患者さんのところへ行きまわりました。食事の時の訪問では、食の進み具合から患者さんの状態が推測できます。就寝前など可能な限り患者さんの話を聞くことを心がけました。必要なことは上級医に報告し、指示があれば実行していただきました。そんなことが、自分のことを一番見てくれるのはこの若い研修医たちだと思ってもいいかもしれません。それどころか、研修医生活をなんとかサポートできたのは、このように患者さんのおかけであつたと思えます。また、医師になった頃の教授回診で答えに窮した際に、「しつかり診ないといけないじゃないか。具合が悪ければ付きっきりで診ている。」と叱責されました。

現在、日本は少子・超高齢、人口減少社会を迎えています。疾病構造は変化し、医療・介護などの社会保障のニーズも変わってきているとともに、労働人口が減少している人が働けるような環境づくりが求められています。女性の社会進出はどの分野でも加速してきており、医療の分野も例外ではありません。男女を問わず仕事と生活の両立（ワーク・ライフバランス）、男女共同参画、それぞれの事情に応じた多様な働き方を選択できる社会的実現がますます重要となります。

女性医師が女性であることを特別に意識しなくても研修を継続し、キャリアを形成できるように新潟県医師会ではサポートいたします。具体的には子育て・産休育休後の復職・キャリア形成等の相談に専任相談員が対応・支援します。いつでも新潟県女性医師会総会・支援センターにご連絡ください。これから、様々な病院での研修生活を迎えられることと思います。チャンスはどこにもありません。若さという強力な武器を持つみなさんの活躍を期待します。



医師として羽ばたく皆さんへのメッセージ

高塚 尚和

ご卒業おめでとうございます。6年間、長い学生生活を無事修了し、これから医師として羽ばたく皆さんに心よりお祝い申し上げます。また、これまで長年にわたり支えてこられたご両親やご親族、友人への感謝の気持ちも忘れず、これまでも思いま

さて、私が卒業した当時は初期臨床が必修化されておらず、卒業後に直ちに法医学教室に入局して、現在に至っています。臨床医としてキャリアを歩み始める皆さんに適切なお話をできるかどうかは疑問ですが、法医学教室として働いた経験をもとに2つのメッセージをお送りしたいと思います。

2017年における我が国の高齢化率（65歳以上の人口割合）は27.7%ですが、今後さらに上昇し、2065年には38.4%に達すると見込まれています。その一方で、出生率の低下により、少子化も進んでいます。このように、高齢化と少子化の同時進行が社会課題となっており、医療・介護の需要がますます高まると見込まれています。このような状況下で、医師として活躍する皆さんには、高齢者や子どもに対するケアの重要性がますます高まると考えられます。研修医としての皆さんには、高齢者や子どもに対するケアの重要性をしっかりと認識し、日々の臨床で実践できるように努めてほしいと思います。

